

## 特別定額給付金支給開始

新型コロナウイルス感染症緊急経済対策のひとつである特別定額給付金の申請書受付、支給が始まりました。市役所2階の大会議室を会場とし、申請書の開封、確認、入力作業等を行っています。

少しでも早く確実に皆さんに届けられるよう進めています。

申請期限は8月24日(月)です。

《問合せ》総務課 ☎21-9009



▲定額給付金申請書の開封確認作業

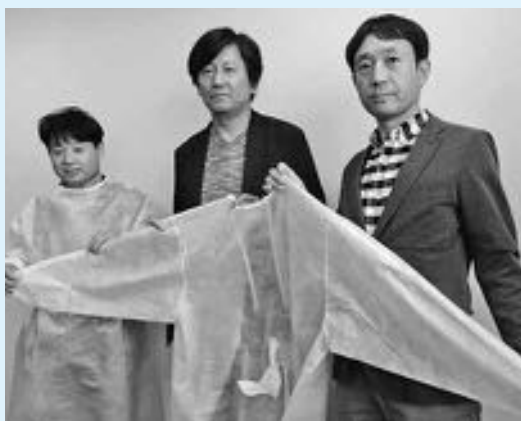
## 兵庫県靴工業組合による

### 医療用ガウンの生産事業

兵庫県靴工業組合が、雇用の維持と新型コロナウイルス感染症対策を目的として、全国的に不足する医療用ガウンの生産を始めました。

加広町の薬店跡地を拠点とし、帝人フロンティア(株)から支給されるガウン生地(不織布)を市の補助金を活用して購入した裁断機で裁断、市内23社の靴メーカーが技術を生かして縫製します。生産目標は8月末までに80万着を予定し、医療現場における感染防止に寄与します。

《問合せ》環境経済課 ☎23-4480



▲左から副理事長の植村賢仁さん、理事長の由利昇三郎さん、副理事長の足立哲宏さん

# 市政 ニュース

## 〈主な市政の動き〉

### 〔5月〕

- 11日・中江種造翁感謝の式
- 13日・(株)ビエントよりマスクの寄付
- 15日・第6回新型コロナウイルス感染症対策本部会議
- 18日・2020年度第1回総合教育会議
- 25日・特別定額給付金の受付開始
- 27日・市長臨時記者会見

### 〔6月〕

- 29日・市議会定例会開会(6月25日)
- ・ドイツホストタウン4市でドイツ連邦共和国にコロナに負けぬよう応援メッセージ送付
- 1日・市立小・中学校学校再開
- ・木下酒造(有)からコウノトリ基金に寄付



※掲載している情報は編集時点(6月15日)のもので、変更になっている場合がありますので、ご注意ください。

## 「豊岡スマートコミュニティ推進機構」設立

5月7日、本市と(一財)トヨタ・モビリティ基金は、適切な技術(ICT、IoT、データ活用等)を用いて生活の心地良さを高めつつ、人々が多様性を認め、フラットでスマートにつながるコミュニティを構築することを目的に「豊岡スマートコミュニティ推進機構」(以下、TSC)を設立しました。

TSCでは、豊岡演劇祭や日高地域を主なフィールドとして、新たなモビリティサービスの試行や防災機能強化の取り組みなどを行っていくこととしていきます(7ページに関連記事あり)。

《問合せ》大交流課 ☎21-9016



**Toyooka Smart Community**  
Powered by TMF

▲豊岡スマートコミュニティ推進機構のロゴ



▲昨年の演劇祭では超小型電気自動車によるサービスを試行

## 「コウノトリ育むお米」の輸出好調

輸出好調

「コウノトリ育むお米」は現在六つの国と地域に輸出し、高級スーパーや日本食材店で小売りされているほか高級日本食レストランで使用されています。

2019年度は過去最高の輸出量でしたが、20年度は4~5月で前年度同期の約3倍にあたる7.5トンを出しました。新型コロナウイルスの影響で世界中で外出規制が始まり、巣ごもり消費に対応してのインターネット販売等が増えました。

現在は海外でのプロモーションが行えないため、現地のセールスマンにコウノトリの状況や田植えの様子など、産地の情報を消費地に届けています。

《問合せ》農林水産課 ☎21-9017



▲2019年9月日本食レストランエキスポに出展(ニューヨーク)

## 中貝市長の徒然日記 ⑫

壁を越えて

2月、植村直己冒険賞の発表をしました。受賞者は、岩本光弘さん。世界で初めて全盲でヨットによる無寄港・太平洋横断を達成された方です。

生まれつきの弱視で、16歳で光を完全に喪失。そこから立ち上がってきました。

アメリカ留学を経て、盲学校の鍼灸科の教員に。アメリカ人女性と結婚し、その妻の勧めでヨットを始めます。

2013年、ニュースキャスター・辛坊治郎さんと福島県の小名浜港から太平洋横断を試みるも、6日目にクジラと衝突。自衛隊に救出され、無謀な売名行為と散々な批判を受けます。失意と苦悩の日々。しかし、そこから立ち上がったきました。

19年2月24日に米国・サンディエゴを出発したヨットは、同年4月20日、小名浜港に到着します。ヨットの至る所に、娘さんが貼り付けた点字シールがありました。

著書「見えないからこそ見

えた光」を読みました。家の中を移動すること、階段を下りること、道路を横断すること、バスに乗ること、買い物をする。それらの一々が大変な冒険であったことが分かります。その延長線上に、今回の冒険がありました。

ある医師が概要こんなことを書いていました。障害者の「障害」とは、その人の属性を言うのではない。能力がないということでもない。その人と社会の間にある壁のことを言うのだ、と。岩本さんの冒険は、その壁を乗り越える、延々と乗り越える挑戦でした。

航行中、夕日が沈むのを感じて涙が出たのだそうです。「あのとき自殺しなくてよかった。前回の遭難で死ななくてよかった。それを乗り越えて挑戦ができてよかったと、ポロポロと泣いたのです」

6月に授賞式を行う予定でした。しかし、コロナです。7月末まで帰国中の岩本さんに、たとえ小さな授賞式になったとしても、この豊岡で、岩本さんの首に冒険賞のメダルをかけたいと願っています。